

国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of
National Institute for Land and Infrastructure Management
No.663 January 2012

国土交通省国土技術政策総合研究所

緑化生態研究室報告書 第26集

緑化生態研究室

Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (26th)

Landscape and Ecology Division



国土交通省 国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan

表紙の写真：緑化施工後の道路のり面



- 写真 1：草原の表土を利用して緑化したのり面（北海道礼文郡）**
- 写真 2：森林の表土を利用して緑化したのり面（北海道白老郡）**
- 写真 3：森林の表土を利用して緑化したのり面（広島県庄原市）**
- 写真 4：森林の表土を利用して緑化したのり面（鹿児島県奄美市）**

近年、外来種の逸出や遺伝子攪乱の問題を背景に、地域性を考慮した緑化植物の取り扱いが求められています。これまで緑化に用いられてきた外来植物に替わる緑化工法として、森林の表土に含まれている埋土種子の発芽力を利用した緑化工法が開発され、比較的安定して材料を確保できる、地域性を考慮した緑化工法として広く利用されています。緑化後の植生は、地域により、特に標高や降水量などにより異なりますが、低地ではススキやヌルデ、アカメガシワなどの植物が優占することが多く、山間地域ではヤマハンノキやバッコヤナギなどが優占します。